

㊄ 中小企業経営・中小企業政策

【総評】

令和8年度の本試験は、42問の設問数であり、出題内容別で見ると、中小企業経営が21設問、中小企業政策が21設問と、例年どおりであった。

難易度は、中小企業経営、中小企業政策ともやや難しかったため、全体的には前年度よりも難易度は高くなったものと考えられる。

（中小企業経営）

21設問のうち、『2025年版中小企業白書』からの出題が17設問、『ものづくり白書2025年版』からの出題が1設問、『令和7年度経済財政白書』からの出題が2設問、その他1設問であった。中小企業経営は、白書の特徴をしっかりと押さえられたかが得点に大きく影響する。

第1問（従業者数・付加価値額）、第3問（売上高経常利益率・自己資本比率）、第5問（借入金依存度）、第7問（開業率と廃業率）を中心に、その他の問題でも可能な限り得点を積み重ねたい。

（中小企業政策）

21設問のうち、高い出題可能性が予想されていた「中小受託取引適正化法」と、定番の頻出論点等でしっかり得点を積み重ねることができたかどうかで得点が大きく変化する。これまでに出题されたテーマをいかにミスせずに得点できたかがポイントとなるだろう。

第19問（中小企業基本法）、第22問（中小企業退職金共済制度）、第27問（中小受託取引適正化法）、第29問（成長型中小企業等研究開発支援事業）、第30問（中小企業投資育成株式会社）などで得点を積み重ねたい。

以上